

## 医療法人・偕行会グループが新体制に

# グループ会長に川原弘久氏 偕行会新理事長に山田哲也氏 両氏に「医療の未来」をインタビュー

総合的な医療を目指し日本トップクラスの透析医療で評価されている医療法人偕行会グループ（名古屋市中川区法華1-172）の会長兼理事長だった川原弘久氏がこのほどグループ会長に専念することになり、新理事長に山田哲也氏が就任した。少子高齢化、グローバル化など難問を抱える医療界だが、新時代にどう向き合おうとしているのか、両氏に話を伺った。

（聞き手は編集長・塚本隆）

### 腎臓の透析医療でスタート

—1979年の創業から、これまでの歩みと現在の規模などを教えてください。

川原 ほぼ10年単位で事業は発展してきました。79年の名古屋共立病院開設からスタートし最初の10年は、愛知県、長野県、岐阜県、静岡県と透析クリニックを開設して透析医療に集中し充実させました。次の10年は透析患者の合併症対策を中心に、がん治療も含めた一般医療に注力しました。当時、名古屋医療圏は病床過剰地区で規制されており現在の病床数にしか出来ませんでした。そして99年からの10年は高度医療を展開しました。PET（陽電子放出断層撮影＝放射性薬剤を体内注射し、がんに取り込まれる分布などを画像化。高精度ながん検査）センターをつくり、日本で始めてPET-CTを臨床導入しました。放射線治療ではガンマナイフ、ノバリスといった高度医療機器を積極的に導入し先端医療を偕行会の伝統にしました。偕行会の透析患者の5年生存率は全国平均より20%くらい高い。徹底して合併症対策を施しているからです。例えばグループで実施しているアンモニアPET検査では、検査を受け

た無症状の患者でも3-4割の人に心疾患が判明します。微量の放射線を出すアンモニアを注射してPET撮影すると心臓に流れる血液の量が分かり、虚血性心疾患の早期発見に役立ちます。このようなレベルの透析医療を行う所は日本ばかりか世界でも例はありません。また血流が十分でない人には人工炭酸泉療法を施します。含まれる高濃度炭酸ガスは毛穴から素早く吸収され末梢の血管まで拡張します。足浴を1回十数分、人工炭酸泉に浸け週3回のペースで続けると血流は3倍に増え、壊疽などの症状や心機能が良くなります。ヨーロッパでは温泉による炭酸泉療法は保険適用されています。

### 5か国と医療連携も

直近の10年は海外戦略にも取り組みました。日本の人口減少と社会保障費の抑制に対応するため海外にもマーケットを広げました。インドネシアのジャカルタにクリニックも開設しました。中国、インドネシア、ミャンマー、フィリピンなど5か国と交流・交渉。中国では多くの話がありました。直近では武漢では老人ホームのコンサルティング、北京はPETの患者受け入れなど具体化まで進みましたが、コロナ禍で



川原 弘久（かわはら ひろひさ）  
1941年生まれ。医療法人偕行会グループ会長。66年名古屋大学医学部卒。79年名古屋共立病院を設立。82年に法人化し医療法人偕行会理事長兼院長。偕行会グループは4病院、2画像診断施設、18透析施設、18介護福祉施設を擁する。

ストップ。引き続き進めるつもりですが3年の空白の影響は少なくありません。ただインドネシアでは南スラウェシ州、南カリマンタン州の自治体と透析医療の技術提供、技術指導に関する覚書を結び、大学とも連携も進めています。そして介護福祉士、看護師候補者も計数十人を当グループで受け入れています。

現在、偕行会グループは1都6県に広がる透析ネットワークなど6医療法人で4病院、画像診断施設2、透析施設19、介護福祉施設18を擁し、職員数は約2500人です。

### 山田氏「総合的な医療を目指す」

—グループの特色は？

山田 理念にも掲げていますが、「総合的な医療」を目指しています。それは急性期の患者さんが治療を受けリハビリを受けて、病状が慢性期になったら自宅に戻ったり、介護施設に入所したりという患者の全てのステージに対応する医療体制を備えていることを意味します。

私は18年前に入職し、医療経営のノウハウを身に付け、やがては独立開業をと思っています

したが、偕行会グループに勤めるうち、もっと大きなことができると感じました。透析医療以外に海外事業などを経験し、先を読み、新しいことへの挑戦など普通では経験できないやりがいのあることができ毎日の仕事を楽しかったのです。

もう一つの特長は、民主的な運営です。オーナー企業ながらいろんなことが言える。川原会長は私より27歳年上で、雲の上の人ですが、デイリーイノベーションを唱えられ、いいと思ったことは即断即決。日ごろから勉強されていますが、とにかく早い。これが大学病院などと時間がかかるでしょう。発展し続けられた大きな要因だと思います。

### 川原氏「経営は川原家が責任」

—これからは川原会長、山田理事長体制でグループをけん引されることになります。

川原 家族経営が多い医療機関は事業承継が難しい。つまりケースも少なくありません。私も80才です。自分の子供を医者にする気はありませんでした。医療・臨床機能はドクター